モンゴルにおける学術講習会

－日本鍼灸の特徴および臨床・研究・教育－

Chuluunbat Oyunchimeg　　古　賀　義　久　　坂　井　友　実

要旨：2018年９月８～16日，本学鍼灸学科の坂井，古賀，オユンチメグの３名がモンゴルを訪問し，学術講習会を行うとともにモンゴルの鍼灸事情を視察した．学術講習会は３日間にわたり行われ，「日本鍼灸の現状と特徴」，「頚肩腕痛の病態の捉え方と鍼灸治療の実際」，「間欠跛行の病態の捉え方と鍼灸治療の実際」などを中心に，講演と実技を行った．参加者は84名で，そのうちモンゴルの首都県町村の病院等に勤務している鍼灸医師・伝統医療医師達が約８割，モンゴル伝統医療国際学校教員が約１割，学生が１割であった．疾患や症状を現代医学の面から捉え，病態に基づいて鍼灸を行うということに，参加者の多くが斬新さを感じたようであった．また，低周波鍼通電療法による通電法にも大変興味を示し，積極的な姿勢が見受けられた．

また，モンゴル国立外傷・整形外科研究センターやモンゴル国立伝統医療病院を視察し，鍼灸治療が行われている外来現場を見学した．モンゴルの医療制度における鍼灸の位置づけや鍼灸の果たしている役割を知ることができた．

Ⅰ．はじめに

東京有明医療大学はモンゴル国立医療科学大学と2015年９月８日に大学間協定を締結し，本学の柔道整復学科は既に交流を行っている．

鍼灸学科では，2018年２月，モンゴル国立医療科学大学・モンゴル伝統医療国際学校（注：モンゴル伝統医療国際学校は日本の国立医療科学大学の学部に相当する）鍼灸学科学科長B.Lagshmaa（以下ラクシマ鍼灸学科長）教授を代表として，教員３名，学生４名が来日し，初めて本学鍼灸学科の講義と実技を見学した．

その後，モンゴル国立医療科学大学・モンゴル伝統医療国際学校において講演の機会があり，本学の坂井，古賀，オユンチメグらが日本鍼灸の特徴および臨床・研究・教育について講演・実技を行った．あわせてモンゴル伝統医療・鍼灸医療の現状を視察した．

Ⅱ．交流内容

第１日目：９月８日（土）

MIATモンゴル航空OM502便は14：40に定刻通り成田空港を出発した．同日19：20に到着し，ラクシマ鍼灸学科長と，鍼灸学科教員の出迎えを受け，今回の教育講演・実技等について打ち合わせを行った．

第２日目：９月９日（日）

モンゴルの歴史・文化・習慣・遊牧民生活を見学し，翌日の講演・実技の準備，打ち合わせを行った．

第３日目：９月10日（月）

モンゴル国立医療科学大学を表敬訪問し副学長ムンフバト教授，モンゴル伝統医療国際学校鍼灸学科学科長ラクシマ教授に挨拶をした（写真１）．モンゴル国立医療科学大学，モンゴル伝統医療国際学校，モンゴル伝統医療博物館等を見学した（写真２）．午後はモンゴル国立外傷・整形外科研究センターを表敬訪問した．センター副院長Khishigsuren，教育研究部長Baatarjav，教育研究担当者Munkhdelger，リハビリテーション科長Tsermaa，鍼灸医師Adiloyun，リハビリ医師Uuganbayarの先生達にお出迎えいただき，スライドやDVDでセンターの概要説明を受け，リハビリテーショ

東京有明医療大学保健医療学部鍼灸学科　　E-mail address：oyunchimeg@tau.ac.jp

ン科を見学した（写真３）.

リハビリ見学中に丁度，７歳の男の子が1800キロ離れた西北県から受診していた．馬から落ちて，左前腕骨骨折後の橈骨神経麻痺にて鍼灸医師Adiloyunが中医式の鍼治療と灸治療を行っているのに出くわし，モンゴルならではの事例の一端を垣間見ることができた（写真４）.

第４日目：9月11日（火）

国立医療科学大学中央図書館の3階教育研究ホールで開会式が行われた．MNUMS教育副学長スンベルズル教授，モンゴル伝統医療国際学校学部長ツェレンダグワ教授，本学の坂井の挨拶後，最初の講演として坂井が「日本鍼灸の現状と特徴，そして新たなる展望」というテーマで講演した（写真５）.

その後, オユンチメグが「モンゴルと日本の鍼灸師教育制度の現状」について講演した（写真６）．午後は坂井が「日本社会における鍼灸医学の果たす役割」のテーマで，古賀が「日本の灸治療とその実際」について講演した（写真７）．終了後，記念撮影を行った（写真８）.

第５日目：９月12日（水）

教育講演・実技の二日目，日本の鍼灸教育と鍼灸臨床現場で多く使われている低周波鍼通電法について講演と実技を行った.

坂井が「低周波鍼通電療法の基礎とその実際」について講演し，オユンチメグが低周波治療器の使い方，注意，禁忌について説明した.

午後は「鍼灸臨床における頸肩腕痛の病態の捉え方と診察の実際」そして鍼治療とその実際について講演した．低周波鍼通電療法（以下：EAT）を医療現場で実際に使っているかを質問すると，いつも活用していると答えたのは参加者の約1/3，使った経験があるのは約1/3，全然使ったことも触った経験も無いと答えたのが約1/3であった．モンゴル医科大学の臨床現場で使われている機器は中国製であった.

終了後，2018年２月２日～２月９日までモンゴル伝統医療国際学校から来日し，本学の研修に参加した学生たちであるAnkhtsesteg（４年生），Purev（６年生），Saruulgunj（６年生）と意見交換を行った．学生さん達は病態を把握し，治療プランを立て病態に基づいた治療を行うという本学の治療方針に大変興味を持った様子で，留学も検討しているとのことであった.

第６日目：９月13日（木）

教育講演・実技の三日目,「鍼灸臨床における間欠跛行の病態の捉え方と診察の実際について」また,「鍼治療とその実際について」の実技を行った．ウランバートル市から1600キロ離れている西モンゴルのホブド県から来て教育講演に参加しているモンゴル伝統医療医師のZagdsuren先生が，積極的に鍼通電実技の患者役を希望された．本人は腰痛で苦しんでいたが鍼通電で緩和され，とても貴重な体験が出来た事に感謝していた．参加者達からの質問も沢山あり，しかも積極的で，教育講演の三日間ともに質問攻めにあい，中々終わらなく，深く興味を持っていることを実感した.

参加者からのアンケートによるコメントでは「熱心に講義していただき感謝します」,「鍼の深さで筋の動きが違う」,「これまでの鍼治療と方法が違い是非勉強したい」,「また，モンゴルにきていただき，このような勉強会を行って欲しい」等々の感想があり，参加者にとり充実した時間であったと思われた.

講義終了後，MNUMSモンゴル伝統医療国際学校の学校長ツェレンダグワ学部長のご出席の下，閉会式が行われた．とても充実した貴重な講演と実技を行ったことに対し，お礼とこれからもこのような交流を続けていくことを心より期待しているとのスピーチがあった．その後，記念撮影を行った（写真９，10）.

第７日目：９月14日（金）

モンゴル国立伝統医療病院を表敬訪問した．その後は，ラクシマ鍼灸学科長のご厚意で，遊牧民族のモンゴル地方の現場でゲルの日常生活・大草原の自然を体験させていただいた.

第８日目：９月15日（土）

午前中，ウランバートル市は停電になった．広い範囲での停電はこれまで経験がなく初めてだそうで信号機も止まっており，交通渋滞もいつも以上であった．午後，ウランバートル市内見学と帰国の準備をした．夕方，モンゴル国立医療科学大学教授，モンゴル伝統医療国際学校鍼灸学科長の先生たちと懇談をかねて食事会を行い，今回の講演の感想，参加者のアンケート結果や今後の交流について多方面から話をした．両大学間で交流を深め，知識や技術を高めること

が大切であることをラクシマ学科長が語られていた.

第９日目：９月16日（日）

朝，５時30分にホテルをチェックアウトし，チンギスハン国際空港へ向かった．MIATモンゴル航空OM501便は成田へ向け７時45分定刻通り離陸し，13時40分に成田空港に到着した.

Ⅲ．モンゴルの鍼灸事情 －モンゴルと日本の鍼灸師教育制度の現状－

１）鍼灸師養成制度

モンゴルにおける鍼灸師の養成校は，モンゴル国立医療科学大学の１校のみである．2012年，モンゴル伝統医療学部の中に６年課程として鍼灸学科が新設された．それまでは，医学科，もしくは伝統医療学科の卒業者を対象に行われていた．国家試験に合格すれば,「鍼灸医師」の資格が与えられる．尚，モンゴルでは「鍼灸師」ではなく「鍼灸医師」の称号であり，鍼灸治療を行えるのは鍼灸医師のみで西洋医師や歯科医師の資格では行うことはできない.

２）鍼灸師教育の特徴

教育課程の授業科目は，モンゴルでは中医学に関する科目が多いのが特徴で，実技も中国鍼を使って行う．これに対して，日本では伝統医学から現代西洋医学までの理論や診療技術を取り入れた多様な教育が行われている.

３）鍼灸師国家試験

モンゴルでの国家試験科目は問題数100問に対して鍼灸医学70％，公衆衛生20％，医療関係法規５％，倫理学５％の割合で出題される．鍼灸医学の中に，鍼灸関連の基礎医学，臨床医学が含まれる．日本では14の試験科目が設けられ，160問が出題される.

以上のことからモンゴルが鍼灸学科を新設し，医学科と同じく６年課程としたのは鍼灸医療を医療手段の一つとして高く評価した国の医療政策の結果と考えられる．今後，日本との交流が深まることでモンゴル独自の鍼灸医療のスタイルが確立され発展していくことが期待できる.

また，中医学の科目が多いことは歴史的に中国との交流が盛んであったことによると考えられる.

Ⅳ．おわりに

今回，著者らはモンゴルを訪問し日本鍼灸について講演と実技供覧を行った．講習会に参加した受講生の多くが病態把握に基づいた治療や低周波通電に大変興味と関心を示し積極的な姿勢がみられた.

また，モンゴル伝統医療・鍼灸医療の現状を視察しモンゴル伝統医療の鍼灸は中医学に基づいて発展してきたことがうかがえた．今後，両大学の交流を深め鍼灸医学の発展につながれば幸いと考える.

謝　辞

今回，日本鍼灸をモンゴルの先生方にお伝えできる機会をいただいた櫻井理事長，本間学長，成瀬学部長，柔道整復学科の橋本学科長，鍼灸学科の高倉学科長，並びに関係各位の皆様に心より深く感謝申し上げます.

参考文献

１）Chuluunbat Oyunchimeg，坂井友実，古賀義久，安野富美子：モンゴルと日本鍼灸医学の比較研究－鍼灸師養成制度の現状－．全日本鍼灸学会抄録　2016；65：205

写真１

写真２

写真３

写真４

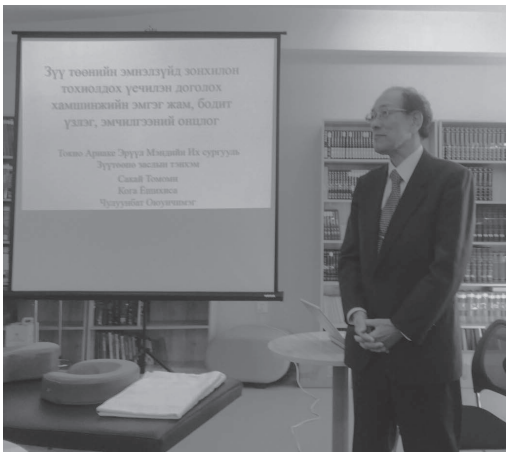

写真５

写真６

写真７

写真８

写真９

写真10

【日程スケジュール】

月　日		日　　程
１日目	９月８日（土）	14：40　NRT OM502便　成田空港発，19：15　ULN モンゴル国ウランバートル市着
２日目	９月９日（日）	モンゴルの歴史・文化・習慣見学，講演・実技の準備，打ち合わせ
３日目	９月10日（月）	ＡＭ：モンゴル国立医療科学大学・モンゴル伝統医療国際学校を表敬訪問 ＰＭ：国立外傷・整形外科研究センター・リハビリテーション科を表敬訪問
４日目	９月11日（火）	＜臨床鍼灸学－Ⅰ＞　開会式・講演
	９：00－９：30	開会式・開会の辞
	９：30－10：30	講演：坂井「日本鍼灸の現状と特徴，そして新たなる展望」
	10：30－10：40	記念写真
	11：10－12：00	講演：オユンチメグ「モンゴルと日本の鍼灸師教育制度の現状」
	13：30－15：00	講演：坂井「日本社会における鍼灸医療の果たす役割」
	15：30－17：00	講演：古賀「日本の灸治療とその実際」
５日目	９月12日（水）	＜臨床鍼灸学－Ⅱ＞　講演・実技指導
	９：00－10：30	講演：坂井・オユンチメグ「低周波鍼通電療法の基礎とその実際」
	11：00－12：00	実技：低周波鍼通電療法
	13：30－15：00	講演：坂井・古賀「鍼灸臨床における頸肩腕痛の病態の捉え方と診察の実際」
	15：30－17：30	講演・実技：坂井・古賀「頸肩腕痛に対する鍼治療とその実際」
６日目	９月13日（木）	＜臨床鍼灸学－Ⅲ＞　講演・実技指導・閉会式
	９：00－12：00	講演実技：坂井・古賀「鍼灸臨床における間欠跛行の病態の捉え方と診察の実際」
	13：30－16：30	講演実技：坂井・古賀「間欠跛行に対する鍼治療とその実際」
	16：30－17：00	閉会式：ツェレンダグワ教授（モンゴル伝統医療国際学校 学部長）
７日目	９月14日（金）	モンゴル伝統医療現場の視察
８日目	９月15日（土）	モンゴル伝統医療国際学校 鍼灸学科長ラクシマ先生との意見交換
９日目	９月16日（日）	７：45　ULN OM501便　ウランバートル市発，13：40　NRT 成田空港着